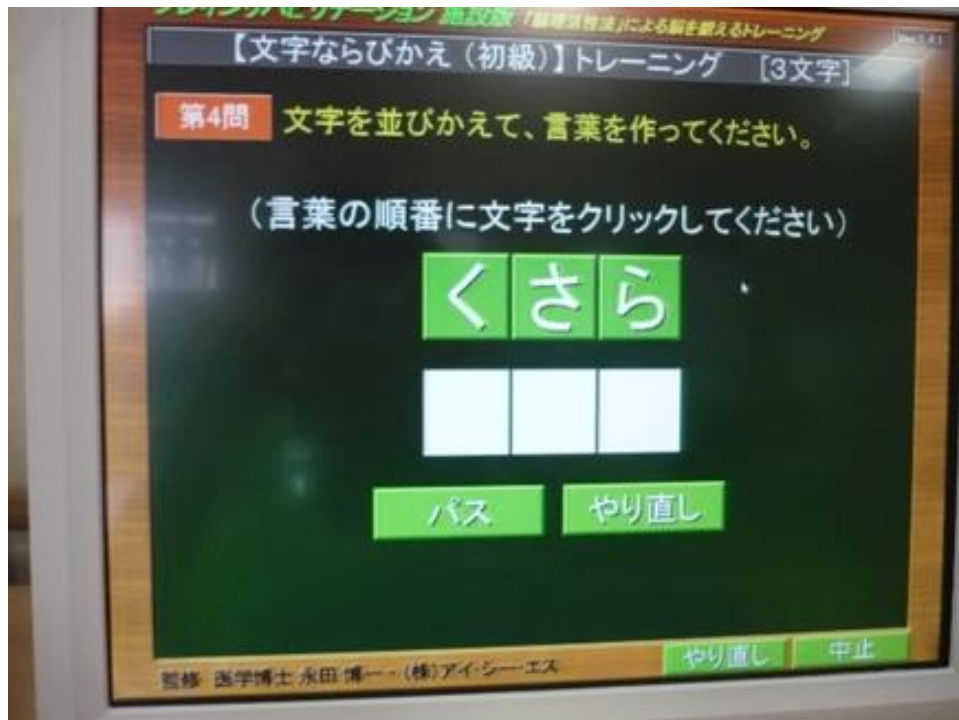


## CASE 5

### 生活への意欲を向上させ在宅復帰に繋がった例

脳塞栓症及・左基底核出血を伴った 70 代の男性は、医療機関からの退院後、3 カ月の施設入所には前向きではなく、施設でのリハビリテーションに対する意欲や今後の生活課題に対しての希望が乏しい状態でした。ご本人は、なすべき課題があるとしっかりやり遂げる性格であることをご家族からお聞きしたので、自室から車椅子を漕いでして頂き、リハビリ室に設置されているパソコンにてブレインリハビリを実施した頂くことを日課としてもらいました。



ブレインリハビリでは、認知機能向上以外にもタッチパネルの操作で手の巧緻性の向上や失語症による構音障害に対して音読を行って頂くなどの副目標も定めて実施したところ、食事の際にスプーンの運びが安定したり、話される言葉は聞きやすくなり会話される機会も増えました。また、リハビリ以外の施設での活動なども積極的に参加されるようになり、予定通り 3 カ月で在宅復帰されました。

平成 28 年 10 月